

研究課題：特定健診質問結果と歯科検診結果および歯科受診行動との関連

研究者：栗田 浩、山田慎一、櫻井精斉

所 属：国立大学法人信州大学医学部歯科口腔外科学教室

【目的】平成 30 年度から特定健診の質問項目に歯科に関連する項目が導入された。そこで本研究の目的は、導入された特定健診質問項目が、歯科および口腔の健康状態とどのような関連があるか（歯科口腔の健康状態を反映しているか）を検討することである。

【対象および方法】対象は、2018 年度に長野県安曇野市および塩尻市における国保特定健診・後期高齢者健診（特定健診）を受診した 6,599 名中、研究参加の同意がえられた 2,988 名である。特定健診に併せて歯科健診を行い、特定健診質問項目 13（食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか）、14（人と比較して食べる速度が速い）、および、16（朝昼夕の 3 食以外に間食や甘い飲み物を摂取していますか）に対する回答結果と、歯科健診との関連を検討した。

【結果】質問項目 13 の回答状況は、①「何でもかんで食べられる」が 83.8%、②「かみにくいことがある」が 16.0%、③「ほとんどかめない」が 0.03%であった。質問 13 の回答結果と歯科健診結果とは有意な関連が認められた。②と回答した者は①と回答した者に比べ、未処置歯数（②0.71 vs ①0.44 本）、要補綴歯数（②0.73 vs ①0.23 本）、および、欠損補綴歯数（②5.93 vs ①2.47 本）が有意に多く、現在歯数（②20.93 vs ①25.27 本）や健全歯数（②9.33 vs ①12.53 本）が有意に少ない（post-hoc test,  $p < 0.01$ ）との結果であった。また、歯肉出血（②65.9 vs ①54.6%）、6 mm を超える歯周ポケット（②21.3 vs ①9.8%）、中等度以上の歯石（②21.3 vs ①17.1%）を有する割合や、口腔内の清掃状態が不良（②20.7 vs ①11.3%）な者の割合が有意に多かった（Chi-square test,  $p < 0.01$ ）。質問 14 に関しては、③「食べるのが遅い」と回答した者は、②「ふつう」と回答した者より、欠損補綴歯数（③4.82 vs ②2.93 本）が有意に多く、現在歯数（③22.53 vs ②24.67 本）および健全歯数（③10.34 vs ②11.85 本）が有意に少なかった（post-hoc test,  $p < 0.01$ ）。また、歯肉出血を有する（③58.9 vs ②55.1%）、および、口腔内清掃状態が不良（③18.9 vs ②11.9%）な割合が有意に高かった（Chi-square test,  $p < 0.05$ ）。質問項目 16 に関しては、未処置歯数、要補綴歯数、および、歯周組織の状態と有意な関連は認めなかった。いっぽう、喫煙に関する質問と歯科および口腔内の状況との有意な関連が確認された。

【考察およびまとめ】本研究の結果から、特定健診に加えられた質問項目 13 は、歯および口腔内の状態を反映していることが示された。また、質問項目 14 で「食べるのが遅い」との回答や、質問項目 8 で「習慣的に喫煙をしている」との回答と、歯および口腔内の状況との関連が見られ、歯科保健指導および歯科受診勧奨に利用可能であると考えられた。